

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐特別支援学校

学校番号	108
------	-----

自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒がもつ可能性を最大限に伸ばし、地域社会に参加していく 基礎的・基本的な力を身に付けることができるように、次のことをねらいとする。 ・児童生徒一人一人の障がいの状態や特性、発達段階等に応じたきめ細かい教育支援を行う。 ・仲間や地域と共に、たくましく明るく生きる力を育む。 ・児童生徒が主体的に社会参加するために必要な基礎的・基本的な知識や技能を培う。
--------	--

<教務部>

評価する領域・分野	「教育課程・教材教具・文書管理等」(教務部)	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の公開や保護者との懇談機会が確保され、授業に関する項目や支援計画に関する項目について高い評価を維持できている。 ・業務マニュアルが作成してあったことで、適切なタイミングでスムーズに業務を行うことができた。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 保護者や関係機関との連携 授業参観・懇談の日程や実施方法等の工夫 (2) 各業務のスリム化とデータの管理の工夫	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や研修を通して詳細を伝達し、共通理解を図る ・学部会での共通理解と他学部との連携 ・学部教務連絡会の設定 (月1回) 	
目標の達成に必要な具体的取組	(1) 伝達や研修を通して保護者懇談のもち方、関係機関との連携等の共通理解を図る。 (2) 業務マニュアルを作成し、マニュアルや文書(様式・見本等)をすぐに検索できるようデータ管理をする。	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員からの意見 ・保護者の意見・感想 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子 ・来校者等、行事参加者の感想
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観は3回(各学部4月、9月、1月)実施した。 ・懇談については、個別懇談は4回(4月、6月、9月、2月)、学部懇談は1回(4月)実施した。 ・マニュアルの改善をした。 	
評価の視点		評価
(1) 伝達や研修を通して保護者懇談のもち方、関係機関との連携等の共通理解を図ることはできたか。	A	<input checked="" type="radio"/> B C D
(2) 業務マニュアルを作成し、マニュアルや文書(様式・見本等)をすぐに検索できるようデータ管理をすることはできたか。	A	<input checked="" type="radio"/> B C D
成果・課題		総合評価
○年度始めに懇談内容を配付されたことで、共通理解して、見直しをもって懇談を進めることができた。 ▲ 懇談に長時間かかっている学級もあった。 ○夏休みに中3生徒・保護者・担任と教育相談で就学の課題について、連携を図りながら対応できた。 ○高等学校に見学に行くことで、高等学校で抱える通級指導等の現状や課題について研修することができた。 ▲ 過去のデータが探しにくい。	A	<input checked="" type="radio"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	(1) 伝達や研修を通して保護者懇談のもち方、関係機関との連携等の共通理解を図る。 (2) 過去の文書データ管理と校務支援システムの活用	

学校関係者評価 (令和6年2月5日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者懇談について、満足度の高い懇談を効率的に進められるように、保護者が懇談を通じて何を求めているのかという点を学校側は十分に理解して臨むことが大切である。
-----------	---

・保護者と学校の連携ができていてよい。

<健康安全部>

評価する領域・分野	「保健管理・安全管理」(健康安全部)
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「医療機関との連携」では、学校医と連携し、感染症対策を進めていく。健康管理や感染予防を保健日よりで情報を発信していく。 ・「確実な緊急時対応」では、命を守る訓練や緊急対応訓練等の取り組みを、保護者へホームページ等で情報を発信していく。 ・「清掃・整理等、教育環境の整備」では、安全点検や修繕を組織で確認し、校内外の清掃・整理を進める。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者や外部機関と連携をし、児童生徒の健康・安全管理に努める。 ②職員の危機管理意識の向上と学校環境の安全管理を進める。 ③危機管理体制を整備し、児童生徒の防災教育を進める。 ④運動会の安全な企画運営に努める。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・健康安全部会・学部会・学校保健安全委員会・医療的ケア検討委員会 ・アレルギー対応委員会・防災対策委員会・運動会運営委員会
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ①アレルギー対応策の改善と訓練を実施し、職員や保護者への周知を図る。 ②安全点検や熱中症指数測定を組織で確認し、徹底を図る。 ③防災対策委員会を立ち上げ、専門家や分掌間で連携する。 ④感染症対策を継続し、児童生徒の体調管理、熱中症防止に努める。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康状態、取組の様子 ・保護者の意見(アンケート結果) ・職員の意見(アンケート結果) ・学校医や防災専門家、地域の意見
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ①関係職員で緊急対応マニュアルと緊急時の動きの確認をした。 ②養護教諭が1日3回熱中症指数を測定し、活動の有無を組織で判断した。 ③全校で垂直避難を実施した。企画委員で防災マニュアルの確認をしている。 ④期日を分散し、指導医の助言をもとに感染症予防と熱中症防止に努めた。

評価の視点	評価
①保護者や外部機関と連携し、児童生徒の健康・安全管理ができたか。	A (B) C D
②危機管理意識の向上と学校環境の安全管理ができたか。	A (B) C D
③危機管理体制の整備と防災教育を進めることができたか。	A B (C) D
④運動会の安全な企画運営ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒の健康・安全管理 <ul style="list-style-type: none"> ○アレルギー対応を組織で対応し、事故の防止につながった。 ▲エビペンやブコラム、坐薬の使用等の緊急対応訓練を位置付ける。 ②危機管理意識の向上・学校環境の安全管理 <ul style="list-style-type: none"> ▲ヒヤリハット7件、アクシデント12件(医療的ケアアクシデント7件含む) ヒヤリハット事例を積極的に電子会議室に載せ、原因や対策の共有が必要。 ③危機管理体制の整備・防災教育 <ul style="list-style-type: none"> ○雨天時や地震を想定し、垂直避難時の全校の動きが確認できた。 ▲企画委員での防災マニュアルの確認後、各分掌の役割分担と連携が必要。 ④運動会の安全な企画運営 <ul style="list-style-type: none"> ○▲換気や暑さ対策を行い、安全な運営ができた。今後の実施方法は要検討。 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急対応訓練(エビペン、ブコラムの使用等)を行い、組織で周知を図る。 ・各分掌で分担して、防災マニュアルを見直し、非常変災時への備えを進める。 ・アンケートや学部の意見をもとに、運動会の実施方法を検討する。

学校関係者評価 (令和6年2月5日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や防災マニュアル、アレルギー等危機管理が想定されている。 ・災害時の複合的な事態も想定されるとよい。 ・防災マニュアルの整備や看護師との連携など非常時の備えができていてよい。 ・垂直避難時の行動の確認は、とても大切なこと。
-----------	---

<生活支援部>

評価する領域・分野	「生徒指導・特別活動」生活支援部
-----------	------------------

現状及びアンケートの結果分析等	学校運営協議会委員より、次の2点について、御意見をいただきました。 (1) 仲間のよさだけでなく、自分の良かったことを見付けることはよいことだと思った。 (2) 「MSリーダーズ活動に対し、交通安全に気を付けてほしいと思うので、ポスター掲示のようにできることで啓発してほしい。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 仲間のよさだけでなく、自分自身の良い面に関しても見つめるよい機会となるような取組を行う。 (2) ポスター掲示等、交通安全の啓発活動に取り組む。
重点目標を達成するための校内組織体制	・生活支援部 ・専門性向上推進部、各部会 ・校内ケース会議、連携支援会議、生徒支援委員会 ・いじめ防止等対策検討委員会 ・MSリーダーズ(高等部生徒)
目標の達成に必要な具体的取組	(1) いろいろな考え方、よさを感じられるような心の醸成を促す活動を計画し、実施する。 (2) 主体的なMSリーダーズ活動を進める工夫をし、自己有用感につながるフィードバックを行う。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・児童生徒からの感想や意見、参加態度等 ・保護者等からの意見 ・学校運営協議会委員をはじめとする外部の方からの評価
取組状況・実践内容等	(1) いろいろな考え方、よさを感じられるような心の醸成を促す活動として、「よいこと見付け」を全校で取り組んだ。 (2) MSリーダーズ全員による地域の清掃活動を実施した。仲間と協力しながら清掃活動に取り組む姿が見られた。また、西濃地区高校生による交通安全推進大会への参加や交通安全啓発ポスターの掲示を行った。
評価の視点	評価
①自分のよいところに気付ける、仲間のよさを認めたり思いやったりする様子が見られたか。	A (B) C D
②地域貢献や交通安全に対しての活動に、自ら取り組む様子が見られたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○「よいこと見付け」を実施する中で、挨拶が自分からできたことや、自分自身の課題はこれだから、そこを意識して取り組めたことなど、少しずつではあるが、自分自身の良い面を見つめられる姿が見られた。また、実習から戻ってきたときに、「お疲れ様」や「おかえり」と言ってもらえたことで、自分は頑張ったなと思えると感じることができた生徒もいた。 ○MSリーダーズの地域清掃活動では、谷汲山参道清掃だけではなく、学校周辺の清掃にも取り組んだ。活動中、自ら仲間に言葉を掛け、清掃活動に取り組む姿が見られた。また、西濃地区高校生による交通安全推進大会に参加した代表生徒からは、交通安全の啓発を全校放送するとよいという意見が出され、それを実行できた。 ▲自己肯定感、自己有用感を育てられるような取組を継続していけるとよい。 ▲MSリーダーズ活動の交通安全啓発活動の方法を工夫していけるとよい。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・いじめの未然防止の観点からも、いろいろな考え方、よさを感じられるような心の醸成を促せる取組を行う。 ・MSリーダーズ活動について、放送やポスター等の活用を含めた活動を、生徒たちが自主的に行うよう促す。

学校関係者評価 (令和6年2月5日実施)

意見・要望・評価等	・よいこと見付けは、とても良い取組である。自分の頑張りを意識して過ごすためのツールとして、ぜひ続けるとよい。 ・生徒が挨拶を自分からできるように、教師から生徒への気づきができる支援があるとよい。
-----------	--

<キャリア支援部>

評価する領域・分野	「キャリア教育」「関係機関との連携」「情報提供」(キャリア支援部)	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内でのキャリア教育(進路指導)の系統性を図ることが必要である。 ・今後も、障がい福祉の法律や制度の変化に応じて、保護者にタイムリーな情報や学校の取組等を紹介する有効的な方法を工夫していく必要がある。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① キャリア教育(進路指導)について組織的、系統的に取り組む体制作り。 ② 保護者へのタイムリーな情報提供。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア支援部(学校全体の企画・運営) ・他分掌との連携(教務部、専門性向上推進部) ・小・中・高等部会(一人一人やライフステージに応じたキャリア教育) 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ① キャリア教育全体計画の作成及び教職員への共有や小・中・中学部の作業学習や実習等の参観、体験機会の設定及び実施。 ② 学校HPや進路だよりを活用したキャリアの取組や関係機関との連携内容の紹介、高等部保護者への進路説明会の実施や校内進路活動等への保護者の参観機会の提供。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの意見や感想 ・学校運営協議会の意見、感想 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ① キャリア教育についての教職員への研修実施、中・高部校内作業実習参観、体験実施。 ② 学校HPや進路だよりを活用した情報発信や校内作業実習の保護者参観の実施。高等部保護者への進路説明会及びPTA進路研修会の実施。 	
評価の視点	評価	
① 適性やニーズに即した進路支援体制の構築、関係機関との連携ができたか。	A B C D	
② 職員へキャリア教育や進路についての研修を実施することができたか。	A B C D	
③ 児童生徒や保護者に分かりやすく進路情報や取組を提供することができたか。	A B C D	
成果・課題	総合評価	
① キャリア教育全体計画の作成を進めることができたが、完成まで至らなかった。 ② 進路情報の提供については、学校評価アンケートにおいても概ね評価は得られた。しかし関係機関との連携については、情報発信の仕方を工夫する必要がある。	A B C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ① キャリア教育全体計画については、検討を重ね、引き続き作成を進める。 ② 発信内容を精選したり、発信回数を増やしたりして保護者や職員への「見える化」を図る。(関係機関との連携についての報告) 	

学校関係者評価 (令和6年2月5日実施)

<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路がミスマッチにならないように、より充実した情報提供と発信が重要である。また、教職員も進路先に実際に足を運び十分な理解のうえ、生徒支援にあたれるとよい。 ・進路説明会や先輩の話を聞く機会が増えるとよい。 ・ホームページは、定期的な配信や学校の様子が見やすくなった。 ・すぐメールよりもアプリの方がアンケート等の回答はやりやすい。

<専門性向上部>

評価する領域・分野	「研究研修・情報・教育相談・地域支援」(専門性向上推進部)
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と児童生徒の信頼関係や相談のしやすさ、家庭との連携に関しておおむね高評価を得ている。豊かな専門性に関しては昨年度より若干評価が上がった。今後も相談できるような信頼関係や教育相談の啓発に努めるとともに、児童生徒のニーズを的確に捉え適切な指導と支援を行えるよう研修に努めていく必要がある。 ・センター的機能の役割遂行は、他校の幼児児童生徒のための事業であるため周知が低い。しかし、地域からの4年度の相談件数はのべ160件あり、当校の専門性を生かした支援に対するニーズはある。4年度後期から実施している情報発信を継続し取組の周知を図っていく必要がある。

<p>今年度の具体的なかつ明確な重点目標</p>	<p>(1) 特別支援教育の専門性の向上を図るため、研修・研究に努める。</p> <p>(2) 学校生活や家庭生活での児童生徒の困りごとや児童生徒を支える教員、保護者の困りごとに対して、相談しやすい体制を作るとともに、各部署と連携を図り組織で対応をする。</p> <p>(3) 地域支援センターとして、地域の幼小中の依頼に応じて訪問支援や巡回訪問を行い、幼児、児童生徒の実態把握の仕方や指導・支援の方法に関して具体的な方法を伝え、地域の特別支援教育の一助となる。</p>
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<p>・専門性向上推進部 ・研究推進委員会及び各研究グループ ・各部会</p> <p>・生徒支援部、キャリア支援部 ・校内ケース会議、連携会議</p> <p>・いじめ防止等対策検討委員会 ・コーディネーター会 ・スクールカウンセラー</p> <p>・訪問支援・来校相談支援・巡回訪問</p>
<p>目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>(1) 特別支援教育の専門職として研修・研究の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校研究を中心に、日々の授業改善を通じた実践力・指導力の向上を図る。 ・ICTの有効的な活用のため、職員研修によりスキルを高め、授業で活用を図る。 ・専門性を向上するために、校内研修会の実施や校外研修会への参加を推進する。 <p>(2) 児童生徒、職員、保護者の「困りごと」解決に向けた相談支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の生活の様子やアンケートをもとにしたSCの活用と情報交換を生かした支援の実施をするとともに、相談の場の提供や心の安定についての啓発をする。 ・相談支援事案等に対して、迅速に校内外の各部署と情報共有や連携を図る。 <p>(3) 地域支援センターとして、実態を把握し「困りごと」に対する指導・支援に対する助言の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒と教員の両者の困り感に立った支援を行うため、特別支援学校の授業方法や手立ての工夫、教材教具等の具体的な事項を提供しながら支援をする。 ・教育相談や支援訪問にかかる専門性の向上のため、コーディネーター同士で事例検討会を実施する。
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<p>・研究授業および各研究グループでの研究授業における事後検討会での相互評価</p> <p>・保護者アンケートおよび学校運営協議会委員等からの意見</p> <p>・スクールカウンセラーへの相談内容や児童生徒の変化</p> <p>・相談依頼件数や相談後の状況 ・地域の外部機関からの評価</p>
<p>取組状況・実践内容等</p>	<p>1 全校研究会・校内研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者や研究グループ担当者と連携を取り合いながら各グループ年1回以上研究授業を行い、他グループの職員も研究授業を参観、ビデオ視聴等をして全校研究に取り組んだ。 ・PT、OT、STの専門職の授業支援を通して、知識や技能の向上の実践的な研修を図った。 ・各分掌の研修会を職員が集まる機会を用いて実施したり、eラーニングシステムによる研修会を開催したりした。 ・職員が自主的に学びを深め、指導力向上を図れるように、公開されている研修会を広報した。 <p>2 相談支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談アンケートや心のアンケート、日常での保護者連絡や児童生徒の様子等から、迅速に困りごと等を把握し、積極的に対応を行った。 ・必要に応じて対象学部や学年、生活支援部やキャリア支援部、教育相談担当、スクールカウンセラーと連携を図り、ケース会議や連携支援会議を実施した。 ・学校での学習活動等が家庭生活で生かしたり振り返ったりできるよう通信発行や掲示をした。 <p>3 地域支援センターとしての役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の園や学校、または保護者の依頼に応じ、児童生徒の学習・生活の様子等から実態把握を行い、指導や支援について相談支援を実施した。
<p>評価の視点</p>	<p>評価</p>

<p>1 全校研究会・校内研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別最適な学び」「協働的な学び」の観点から授業改善への取り組みを通して、障がいの特性等に応じた授業実践やICT活用等、「専門性の向上」を図れたか ・1人1人の指導力向上のため、自主的に学びを深められるような講演会や先進校等の研修会の提供や専門職の授業支援による実践的な研修ができたか ・各分掌と連携をして研修の実施、検討を図れたか <p>2 相談支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内事案について情報共有を図り、学習支援相談、子育て療育相談、ケース会議や連携会議が実施できたか ・保護者が子育てを振り返ったり参考にしたりできる資料の提供ができたか <p>3 地域支援センターとしての役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特別支援教育の実施に関して、各小中学校の担任やコーディネーターをサポートするための訪問支援や研修会が実施できたか 	<p>A ② C D</p> <p>A ② C D</p> <p>A ② C D</p>
<p>成果・課題</p>	<p>総合評価</p>
<p>1 全校研究会・校内研修会の実施</p> <p>○「個別最適な学び」「協働的な学び」を継続の研究テーマとし研究授業や事前検討会、事後検討会での学び合いを通して、授業改善を図ったり職員の学びこつなげたりすることができた。</p> <p>●他グループの職員も研究授業を参観するための感想用紙を作成したが、書式を今後検討する必要がある。</p> <p>○教員の主体的な学びのために県内外の研修の情報提供に努めた。</p> <p>●専門家等を招いた校内研修の提供について検討し、必要に応じてスキルアップの機会を作る。</p> <p>2 相談支援体制の充実</p> <p>○学部や学年、生活支援部等と連携を図り、児童生徒や保護者の困りごとや問題になりそうなことに対して、定期的にケース会議や連携支援会議等を実施し、見届けを行うことができた。</p> <p>●通信は掲示での啓発が少なかった。学校として、相談や支援体制をもう少し発信するとよい。</p> <p>3 地域支援センターとしての役割</p> <p>○地域の特別支援教育のセンター的機能の役割を意識し、相談支援や児童生徒に対する支援、環境の提案、適切な学習の場の検討を丁寧に行うことができた。</p> <p>●特別支援学校から情報発信をすることで、地域の幼保小中学校の特別支援教育を推進できると良い。</p>	<p>A ② C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修や全校研究を通した専門性向上のための研究会のもち方の工夫 ・児童生徒や保護者の困りごとや問題事項に関する、組織的対応と継続的な見届け体制の継続 ・特別支援学校の授業方法や支援、手立ての工夫、教材教具等の情報発信

学校関係者評価 (令和6年2月5日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別懇談をはじめ、児童生徒や保護者がさらに相談しやすい体制を作るとともに、職員の対応力を強化していくとよい。
--

< 渉外・広報部 >

<p>評価する領域・分野</p>	<p>「保護者との連携・広報」(渉外・広報部)</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「相談しやすい雰囲気」、「教職員の親しみやすさ」は、ともに96.2%でよい評価であった。 ・「進路情報提供」については、92.3%でよい評価であった。 ・「プライバシーに配慮した教育活動」については、6%評価が上がった。
<p>今年度の具体的なかつ明確な重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 保護者の声を聴き、「持続可能なPTA活動・同窓会活動」の実施 ② 地域・保護者へ当校の教育活動を知ってもらうための活動の実施 ③ 保護者のニーズに寄り添ったPTA研修会の実施 ④ プライバシーに配慮した広報・啓発活動
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・渉外・広報部 健康安全部(防災関係) キャリア支援部(進路研修会関係) ・PTA役員会(PTA活動の企画、運営) ・PTA専門委員会(広報、研修、福利厚生各委員会活動) ・同窓会支援担当(同窓生への連絡、同窓会活動のサポート)

	・理解啓発担当(特別支援教育への理解と啓発)
目標の達成に必要な 具体的取組	① 委員会ごとに担当教員を配置し、委員の方々のサポーターとなる。 ② 児童生徒作品展の実施。地域の作品展に出品。会報の関係諸機関への配付。 ③ 保護者のニーズに基づいたPTA研修会を計画・運営。 ④ 受付名簿や連絡封筒等の記載名を児童生徒名にする。会報発行や作品出品の際の二重チェック。
達成度の判断・判定 基準あるいは指標	・保護者や職員からのアンケート等による意見、感想 ・地域からの意見、感想 ・各学部会 ・企画委員会
取組状況・実践内容等	執行部：推奨服りサイクル、サプライズプレゼント企画の実施。 広報委員会：会報2回、ミニ会報1回発行。 研修委員会：わいわいカフェ「先輩保護者と語る会」、進路講演会の実施。 福利厚生委員会：ベルマーク集計4回実施。45,345点(R5.11月現在) 同窓会支援活動：「成人を祝う会」3学年の実施。 いきいきのびのび展：6回実施。校外作品展：3回出品。
評価の視点	評価
①保護者・関係諸機関と連携し、教育環境の改善や充実、保護者の教養の向上を図ることができたか。 ②役員会や専門委員会等の内容や方法を見直し、有意義な活動ができるように工夫できたか。 ③児童生徒作品展やPTA会報を通して、保護者や関係諸機関へ発信し、当校の教育活動への理解を 広めることができたか。	A B C D A B C D A B C D
成果・課題	総合評価
○ベルマーク回収方法を回収用封筒に添付したことで効率よく集計作業ができた。 ○作品展やPTA会報により当校の活動を地域の方々にも知っていただき、心温まる応援の言葉 や高評価をいただいた。 ▲アンケートをもとに研修会を実施したが、出席率が低かった。	A B C D
来年度に向けての 改善方策案	・役員意向や保護者のニーズに基づいた委員会活動、PTA行事、同窓会活動の実施。

学校関係者評価 (令和6年2月5日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の社会生活について10年後、20年後、30年後の状況を事例紹介の形で情報提供することができる。 教員同士のスキルアップが大事だと思う。 アンケートの活用はよいと思う。
-----------	--

<小学部>

評価する領域・分野	「教育活動・学習活動(小学部)」
現状及びアンケートの結果 分析等	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度も、コロナ感染症対策のため制約の多い中での活動ではあったが、個々の実態を客観的に把握し、課題を明確にして実践できた。単元ごとに授業内容や児童の様子について話し合い、授業後の反省・改善することで、よりよい授業を行うことができた。 日頃から連絡帳や通信等で丁寧に取り組みを行っているほか、アクシデント等についても迅速で誠実な対応を心掛けており、保護者からも概ね高評価をいただいている。 今後は、卒業後の姿を見据えた上で、他機関等の連携を深め、今、何が必要なかを考え立案・計画していく。
今年度の具体的かつ明確な 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 個々の障がいの状態や特性および発達段階等を把握し、卒業後を見据えた学習活動を計画・実践する。 児童が「いきいき のびのび かがやく」ために、研究・研修・情報交換等を活用してよりよい授業をつくる。
重点目標を達成するための 校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 些細な事柄でも共通理解を図る体制づくり 意見が出しやすい学部会や研究会 状況に応じてケース会、支援会議の招集

<p>目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路研修などを通して卒業後の姿をイメージし、個々の実態に応じて、必要な力や今何をすべきか等をグループで話し合う。その上で、教科の系統性や児童の発達段階を考慮し、教材や学習内容を吟味し、指導計画をたて、実践する。また、自己研修や校内研修等を行い、教員のスキルアップを図る。 ・グループ内で研究授業を行い、事前研究・授業実践・事後研究を通して、授業を工夫・改善する。 ・学部懇談会や文書等で、児童の様子や将来の姿、今取り組むべきことなどについて、保護者への情報発信を行う。
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発言や様子 ・職員の意見、反省や評価 ・保護者からの意見や感想
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部卒業時に児童にどのような力がついているとよいか、望ましい姿はどのような姿かなどについて話し合いを行った。 ・個の実態に応じた指導計画を作成し、グループ内で十分な話し合いを行いながら、授業実践を行った。 ・グループごとの研究授業を通して、授業改善や教材教具の工夫を行った ・連絡帳でのやり取りや懇談等で保護者への情報発信を行い、共通理解のもと連携を取ることができた。
<p>評価の視点</p>	<p>評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の姿をイメージし、個々の実態に応じた課題や指導方法などについて、グループで十分に話し合うことができたか。 ・教科の系統性や児童の特性や発達段階を考慮した学習活動を計画・実践することができたか。 ・児童が「いきいき のびのび かがやく」ために、研究・研修・情報交換等を活用して、より良い授業を作ることができたか。 ・連絡帳や懇談、文書等で、保護者へ十分な情報発信を行うことができたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>成果・課題</p>	<p>総合評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○学年グループで児童の実態を共有し、自発的、主体的な姿につながる授業改善ができた。 ○一人一人の実態や課題を明確にし、発達段階に応じた授業内容の工夫や、児童の実態に応じた教材教具の工夫ができた。 ○新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、大きな集団での活動や調理活動等が再開でき、児童が意欲的に活動し、達成感を味わえる授業内容を組むことができた。教員も、複数の目で指導・支援に取り組むことができた。 ○OTやSTのアドバイスを受けながら、個々の課題に合わせた取組ができた。 ○保護者との連携を密にし、連絡帳のやり取りだけでなく、相談や気になることがあれば早期に対応して、信頼関係を作ることができた。 ○日頃から情報の共有を心掛け、職員間で共通理解を図ることができた。 ○居住地校交流の直接交流や、谷汲小学校との交流が再開でき、互いの児童が笑顔で活動する姿が見られた。 ▲教材教具の共有ができるよう、プリント類をフォルダで管理したり、定期的に倉庫などの教材を整理したりして、アップデートしていく。 ▲授業内容や行事の系統性、発達段階、個々への対応方法など、学部全体で話し合い、改善・工夫を重ねていく。 	<p>A (B) C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学部全体で児童の実態や課題を共通理解する。また、学年や学部の系統的な授業内容について話し合いを行い、卒業後を見据えた学習活動を計画・実践する。 ・研究授業に限らず、普通の授業も気軽に見合い、さらなる指導力の向上を目指す。 ・より良い保護者との関係を築くために、丁寧な対応を心掛ける。また一人で抱え込まずに、

	周りの職員に相談できる体制を整える。必要に応じて、外部機関との連携を図る。
--	---------------------------------------

学校関係者評価 (令和6年2月5日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓の仕方は、基本である3S活動や5S活動を参考にして、いらぬものを定期的に捨てることから始めるとよい。 ・異学年との交流大事である。
-----------	---

<中学部>

評価する領域・分野	「教育活動・学習活動(中学部)」	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と生徒の信頼関係及び保護者との連携について、よりよい関係性を構築して進められるように努めている。 ・生徒一人一人の個別の指導計画に基づき、各科目・領域の短期目標に対する適切な手立てを作成し、授業内容が定着できるように努めている。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1) 日常生活におけるコミュニケーション力や人間関係形成能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や部行事の中で自己理解や周囲との関係理解を深める取組方法を工夫する。 ・社会自立につながる必要な知識・技能の習得を図る。 <p>(2) 個々の実態に応じた学びの手立ての作成と学習意欲の向上を目指すための授業改善の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動、生活単元学習等との横断的な取組を踏まえた指導計画の立案および実施する。 ・ICT機器やデジタル教材等を有効に活用し、教育的ニーズに応じて自ら学びを引き出す授業を設定する。 <p>(3) 健康管理指導を通じた疾病予防習慣の育成及び健康維持の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検温や手洗い、手指消毒など教師が具体的に手本を見せながらわかりやすく指導し、感染症対策として実情に合った行動を習慣化させる。 ・一日の身体のリズムを整えるための健全な体力の増進及び食育の推進を図る。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる障がい種との連携(知的学級、重複学級、準ずる学級との共通理解) ・学部会(生徒の情報交換、授業、部行事に向けての共通理解) ・分掌会(学校行事等の計画立案) 	
目標の達成に必要な具体的な取組	<p>(1) 作業学習・生活単元学習・自立活動において、生徒の障がいの実態等を踏まえて、修正や見直しを行いながらその生徒にとっての「できること」を積み重ねていき、自己肯定感を高めていく。</p> <p>(2) 教科指導による個別最適な学びと協働的な学びの研究を進めていく。また、ICT機器やデジタル教材を有効に活用した授業を進めていく。</p> <p>(3) 委員会活動、部集会、授業等を通して生徒の健康管理を指導していく。</p>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動、部行事、学校行事等への参加態度【キャリアパスポート】 ・生徒から学習活動の感想や意見等【各教科・領域における振り返り】 ・保護者からの感想・意見等【授業参観、保護者懇談、学校評価アンケート】 ・関係職員による反省・評価【部会での反省】 ・学校運営協議会委員からの意見【学校運営協議会、学校評価アンケート】 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の障がいの実態を鑑み、授業の進め方の修正や見直し、検討を行った。 ・個別最適な学びとそのための合理的配慮に関する研究を行った。 ・健康維持を保つため、栄養教諭による「食育」に関する指導を実施した。 ・委員会活動を定期的に実施し、図書の情報活動や清掃活動、保健のポスターでの啓発など、生徒が中心となって活動を行った。 ・部の行事や学習活動をホームページに掲載し、保護者や校外の方へ積極的な情報発信を行った。 	
評価の視点		評価
(1) ・学校行事や部行事の中で自己理解や周囲との関係理解を深める取組方法を工夫できたか。 ・社会自立につながる必要な知識・技能の習得を図ることができたか。		A (B) C D
(2) ・自立活動、生活単元学習等との横断的な取組を踏まえた指導計画の立案および実施するこ		A (B) C D

<p>とができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器やデジタル教材等を有効に活用し、教育的ニーズに応じて自ら学びを引き出す授業を設定する。 <p>(3) ・検温や手洗い、手指消毒など教師が具体的に手本を見せながらわかりやすく指導し、感染症対策として実情に合った行動を習慣化させることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一日の身体のリズムを整えるための健全な体力の増進及び食育の推進を図ることができたか。 	<p>A (B) C D</p>
<p>成果・課題</p>	<p>総合評価</p>
<p>○△(全)各授業や学校行事などにおいて、生徒の実態に応じた課題設定をし、職員間で共有できた。担当者が主軸となり、情報共有することは大切である。</p> <p>○(知)手立ての工夫や様々な工程を用意して実態に合わせた授業を行い、主体的で自主的な姿を育てることができた。繰り返しの活動の中にスモールステップの課題を設定し、イラストや選択肢などの視覚支援やデジタル教材やICTを活用して行き、「わかること」「できること」を増やしていくことができた。</p> <p>○(準)(重)(知)訓練参観や専門家支援を活用したことで、とても参考になり、生徒の指導に大変有効であった。健康維持にじっくり取り組むことができた。</p> <p>○(全)「森と環境」では、事業を活用して外部講師による学習ができ、興味関心をもって取り組むことができた。「食育」では、栄養教諭から栄養素のことや食事マナーを学び、生徒たちが互いに意見交流して食に関する学びができた。</p> <p>△(準)教科によっては、デジタル教材の有効的な活用が十分にできなかった。</p> <p>△(知)朝運動の意義を改めて考え、体力の増進を促す。</p> <p>△(全)人員不足時に補充に入るので、業務に対する取組の見直しが必要である。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器やデジタル教材を活用した授業をより積極的に推進するとともに、各教員のデジタル機器活用技術を向上させるための情報共有を行っていく。 ・部に配置された教員人数の中で連携し、業務の均一化や授業教材の共有化を行い、活動内容の見直しや担当する仕事量負担軽減を図っていく。 ・様々な実態の生徒が共に活動していく上で、留意事項の共通理解を図る。

学校関係者評価 (令和6年2月5日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有や援助は大切だが、過度の干渉は、責任をあいまいにする。 ・行事担当者の負担が大きくなるように考慮するとよい。

<高等部>

<p>評価する領域・分野</p>	<p>「教育活動・学習活動(高等部)」</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、児童生徒一人一人の障害や発達段階、特性に応じて、自立に向けた具体的な活動の中できめ細かな支援を行っている。 ・学校は、進路に関する連絡や情報提供を、児童生徒や保護者に向けて適切に行っている。
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動を通して、主体的に学習に取り組む態度や、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力を育む。 ・健康な身体と豊かな心を育み、コミュニケーション能力の向上を図る。 ・将来の職業生活や社会自立に向けての基盤となる資質・能力を育む。
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学部内での共通理解および学年、校務分掌、学部間の連携を図る。 ・外部機関と連携する校内組織の充実を図る。
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学校生活の場で自主的かつ主体的に取り組む姿勢や力を育むことができる学部経営、学年経営、学級経営を行う。 ・生徒一人一人の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等を把握し、適切な指導計画のもと、卒業後の進路の達成に向けた学習活動(教科指導、作業学習等)を実践する。 ・社会自立や社会参加に向けた安全教育の推進(主権者教育、交通安全、地域社会活動、命を守る訓練)に取り組む。
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の意見、反省 ・生徒及び保護者のアンケート結果及び意見

	<ul style="list-style-type: none"> ・現場実習及び販売活動先担当者からの意見及び感想 ・学校運営協議員の意見
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、各分掌において生徒情報の共有を図り、職員の共通理解のもと生徒一人一人の自主性、主体性を育む指導や支援を行った。 ・進路指導において、企業や事業所、行政等の各機関との連携を積極的に図り、生徒や社会環境の実態に応じて職場開拓や現場実習、企業内作業学習の環境整備に努めるとともに生徒の「あいさつができる力」を育む取組をした。 ・適切な時期をとらえ、生徒の現段階での課題や将来を見据えて、新規に加えた外部関係諸機関も交えた進路支援会議やケース会議を実施した。 ・感染症対策に配慮し、活動を慎重にする必要がある中でも、学習形態を工夫したり、行事の開催方法を工夫したりするなど、生徒の社会的自立や社会参加する力を育成するための活動を実施し、机上だけではない経験を増やした。
評価の視点	評価
①学年間の連携を通して、学部経営、学年経営、学級経営を行うことができたか。	A (B) C D
②生徒が自主的かつ主体的に取り組める各教科における学習活動が展開できたか。	A (B) C D
③生徒の将来を見据えた生活単元学習、作業学習等への取組を展開できたか。	A (B) C D
④生徒一人一人の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等を把握し、進路実現に向けた適切な支援をするための取組が適切な指導計画の下で実践できたか。	(A) B C D
⑤生徒の社会自立や社会参加に向けた安全教育に取り組めたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○今年度は、特にキャリア支援部の継続的な取組、「あいさつができる力の育成」が成果を得られ、企業内作業学習では「自ら挨拶ができる」という評価を5名（11名中）得ることができた。</p> <p>○学会や研究の日はもちろんのこと、放課後の職員室等での立ち話等も大切にして、学部職員がチームとなり生徒の情報共有に努めることで、生徒の学校生活の場での自主的、主体的に取り組む姿勢や力を育むことができた。</p> <p>○コロナ禍では実施できなかった体験的な活動や校外学習、行事などを設定することで、校内作業実習や学習発表会の場では3年生が後輩にアドバイスするなど、生徒はお互いに刺激を受け合っ意欲を向上させ、協力して取り組む姿が見られた。</p> <p>○作業学習やその他の授業で個々の課題設定ができ、それに向けて取り組めるよう、教職員間の情報共有を図り、卒業後の生活を見据えた指導・支援を行えた。</p> <p>○OMSリーダーズ活動として、谷汲山参道（継続）や学校周辺の清掃活動（新規）を他機関と協力して行い、地域の方と直接関わり感謝の言葉をいただくことができた。貴重な機会で、継続していきたい。</p> <p>○今年度は、池田高校と対面での交流ができ、①1年生が体育を共同学習、②池田高校の文化祭で当校代表者が作業班紹介や作業製品の販売、③当校に池田高校生が来校し、作業学習を一緒に行うとともに交流をすることができた。より良い交流の在り方や方法を検討していきたい。</p> <p>▲社会情勢の変化に対応し、充実した学習環境を提供するためにトライ&エラーで学習をすすめた。来年度のために、年間の指導計画をしっかりと練る必要がある。</p> <p>▲個の実態に応じた授業内容、活動内容について、外部（地域等）の教育力を活用した授業づくりの推進を図りたい。</p> <p>▲地域ごとに支援サービスの体形や事業の有無などが異なる中で、様々な支援サービスの活用方法や違いなどについて、職員がしっかりと理解しておく必要がある。</p> <p>▲キャリア支援部と連携し、進路に関わるタイムリーな情報提供に取り組みたい。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒実態に即して卒業後の社会的自立と社会参加のため、保護者との信頼関係のもと、生徒一人一人にとって適正な進路実現に向け、学習や生徒支援を行う。 ・職員の指導力向上や負担軽減の観点から、教材教具開発・共有や指導法の研究を行い、生徒主体の個別最適で協働的な学びを提供する授業改善に取り組む。

学校関係者評価（令和6年2月5日実施）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・実習生を受け入れています。学校側で設定した課題の共有を図ることで、実習先でも同じ課題の視点で働きかけることができる。そうすることでより教育効果を高めることができる。 ・最高学年の生徒にプレッシャーのかからない指導ができるとよい。

<全体を通して>

- ・ホームページに様々な取組が紹介されており、学校の様子がわかる。継続していけるとよい。
- ・学校運営協議会をとおして、学校の取組が活きた。
- ・学校の教育効果の評価は、児童生徒の姿を見ればよい。児童生徒が成長できているのか、どんな課題があるのかを探ることで、指導方法や工夫改善が図られ、教育が豊かになる。